

平成26年度埼玉県諮問図書審査票

(乳幼児)

諮問番号	図書名等	内 容	認定基準	推奨の有無
1420	いけのおと 福音館書店 松岡達英／さく	あまがえるくんがすむ小さな池のおはなし。あまがえるくんは「げえこげえこ」、ウシガエルは「ぼう ぼう」、イナゴは「パリ パリ」…という生き物たちのたてる音が楽しい絵本。	(1) (2) (5)	
		選定理由		
		池のまわりの生き物が時間を追って生き生きと描かれ、自然に親しみが持てる。擬音語が効果的に使われ、幼い子も楽しめる。		
1421	ショベルカーが やってきた ほるぶ出版 スーザン・ステゴール/作 青山 南/訳	工事現場に、ショベルカー・ブルドーザー・ミキサー車などはたらく車と、工事の人が次々やってきた。家や道ができる様子が、紙やひもを使った立体感のあるコラージュで描かれている。	(2) (3)	
		選定理由		
		いろいろな種類の働く車と工事の人たちが次々とやってきて、家や道を作り上げていく様子がよくわかる。コラージュの技法を使い、立体感があり、デザイン性も高い。		
1422	バナナのはなし 福音館書店 伊沢尚子/文 及川賢治/絵	「ひやしたらおいしいかな？」とバナナを冷蔵庫に入れてみたら、まっくらになった。バナナは暑いところで育つので、寒いのは苦手なのだ。バナナの成長がていねいに描かれ、バナナのすじや、黒い点の秘密もわかる。	(2) (5) (8)	
		選定理由		
		身近なバナナについて正しく理解することができる。食べる時にじゃまだと思っていたすじは、栄養を運ぶ大切なものだとか、食べられない緑色のうちに収穫して、暑い国から運ばれてくるということなどが、わかりやすく描かれている。		
1423	ひとりで おとまり した よるに 徳間書店 フィリパ・ピアス/文・ヘレンクレイグ/絵 さくまゆみこ/訳	エイミーはおばあちゃんの家にとまり。だじな宝物を3つかばんにいれた。夜になり、お母さんたちに会いたくなると、宝物が意外な方法で、エイミーを家に連れて帰ってくれた…。子供の成長を感じさせる絵本。	(4) (6)	
		選定理由		
		ひとりで泊まれたという経験が子供の自信につながり、成長を感じさせる。離れていても信頼できる親子関係が築かれていく様子が描かれている。		
1424	みつけたよ さわつたよ にわのむし 福音館書店 澤口たまみ/ぶん 田中清代/え	庭で女の子とお母さんがいろいろな虫を見つけた。植木鉢の下には、さわると丸くなるダンゴムシ、丸くならないのはワラジムシ。よく見ると、ほかにもたくさん生き物がいるよ。	(1) (2) (5)	
		選定理由		
		母から子へ、生き物の知識が自然に伝えられている。身近な庭の生き物がていねいに描かれている。実物大の生き物の図版と解説文がついているのでわかりやすい。		

平成26年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校低学年)

諮問番号	図書名等	内 容	認定基準	推奨の有無
1425	あひるの手紙 佼成出版社	ある春の日に1年生のクラスに届いた「あひる」と書かれた手紙は、24歳のゆっくり成長をしているたなかけんいちさんから届いたものだった。その日から、1年生の子どもたちと田中さんの文通が始まる。子どもたちとたなかさんの成長がほほえましい作品。	(3) (4) (9)	
	朽木 祥/作 ささ めやゆき/絵	選定理由 「手紙のやりとり」現在では、意識しなければ少なくなってしまうがちな体験の1つかもしれない。文字を習い始めた1年生と24才のけんいちさんが行う文通。思いやりの気持ちがこめられた返事のあたたかさ。切手を貼ってポストに投函し、返事を待つワクワク感。スピード時代の中で、見直し大切にしたい人と人とのつながり方が表わされていて心温まる物語である。		
1426	さすらいのハンター カマキリの生きかた: 小学館	野原の最強のハンターとして生きるカマキリ。そのカマキリにも敵はたくさんいる。弱肉強食の野原を生き残ったカマキリは、ハンターとして腕を上げ体を成長させていく。子孫を残すという目的のために、自分の命さえ犠牲にしていく。恐ろしいハンターもけなげに見えてくる写真絵本だ。	(1) (5)	
	筒井 学/写真と文	低学年の子どもたちは昆虫が大好き。中でも、かまや顔が特徴のカマキリは大人気である。そのカマキリの一齢幼虫からの成長の過程や交尾、産卵そして迎える死が丁寧に写真と共に記録されている。生態がよく分かる本である。威嚇する様子。カナヘビに食べられてしまう様子。寄生されている様子など、自然界の厳しい真実も写真でしっかりと伝えてくれる本である。		
1427	きもち 少年写真新聞社	きもち。がっかり、イライラ、わくわく、など説明しにくい、いろいろな感情が、絵や文字であらわされている。色彩も表現力も豊かな絵と言葉と感情を結び付ける手助けとなる文章が一体となって、子どもたちが適切な言葉を自然に学べる本。	(2) (4) (6)	
	ジャン・ケイン/さく いしい むつみ/やく	選定理由 書体や文字の配列が工夫されている。それらが、絵と一体になって気持ちが表されている。色彩も素晴らしく、デザインも大変優れている。子どもたちに読み聞かせたとき、絵や文章を通して、本の中の人物と同じような気持ちになり、声を出したり体を動かしたりして楽しんで、言葉と感情を上手くマッチさせられる絵本である。		
1428	あたし、うそつい ちゃった 評論社	小さいものが大好きなあたし。ある日校庭で、小さなカメラを見つけた。実は友達のマーティンのものだったが、自分のものだと言い張ってしまい…。嘘をついてしまった気持ち。親や先生に正直に話せたときの気持ち。主人公のルースの気持ちになって考えられる。	(4) (6) (9)	
	ローラ・ランキン/さく せな あいこ/やく	選定理由 校庭で拾った小さなカメラを自分のものだと言い張ってしまったルース。嘘をついてしまったいやな気持ち。親や先生に正直に話せた時の気持ち。誰でも感じたことのある気持ちが、絵と文章で語られ、読んでいる子どもたちに素直に伝わってくるお話。		
1429	もしかして ぼくは すずき出版	へびのによる。大好きな歌を歌いながら散歩をして、であったのは、りすやバッタやワライカワセミ。そして、ヘビクイワシにしっぽを踏まれてしまう。あきらめちゃダメとがんばったけど、ワニになってしまった！ユーモアたっぷりのお話。	(1) (6)	
	内田麟太郎/作 早 川紀子/絵	選定理由 7才の男の子のへびのによる。散歩に出かける。そこで、こわいこわいヘビクイワシにしっぽをふまれて、絶体絶命！りすやバッタやカワセミが助けようとするが、ヘビクイワシの敵ではない。りすの「あきらめちゃだめ！」の言葉が頭にうかび、「いやだー！」とさげんだ、その瞬間。なんとワニに変身！展開が楽しく、ユーモアたっぷり、文句なく楽しいお話。		

平成26年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校中学年)

諮問番号	図書名等	内 容	認定基準	推奨の有無
1430	もしも宇宙で暮らし たら WAVE出版 山本省三/作(村川 恭介/監修)	近い未来、宇宙に行くことは特別なことではなくなるかもしれない。宇宙で暮らすって一体どんなふうになるんだろう？宇宙ステーションの一日の生活を、絵とそこに暮らす光くんの言葉で紹介している。普段子どもたちがやっている行動を宇宙でやったらどうなるか、光くんの無重力体験をいっしょに体験してみよう。	(2) (5) (6)	
		選定理由		
		科学絵本。もしも宇宙で暮らしたら、という設定で「無重力」を楽しく学べる本。小学生のいつもの生活が無重力になったら、と考えながら、身近な場面で無重力を学べる。宇宙への興味関心を育て、楽しく学べる本である。		
1431	ひとりひとりのやさ しさ BL出版 ジャクリーン・ウッドソ ン/文 EBルイス/絵 さくま ゆみこ/訳	転校生マヤを友だちとして受け入れないクローイ。噂話、仲間はずれの日々が続くマヤが学校に来なくなった。ある日先生が洗い桶に水を入れてちいさな石を落とした。小石からさざ波が広がり、「やさしさもこれと同じ」「一人一人の小さな優しさが、さざ波のように世界に広がっていく」と言われ、誰かに優しくしたことを一人一人が話しながら小石を落としたが、クローイは何も話すことができなかった…。	(1) (4)	
		選定理由		
		転入生への無視、受け入れることや自分の行いの間違いなど葛藤しながらも無視を続ける日々。許しを請う場も与えられないまま、転校してしまう転入生。ずっと心に残る痛み。集団生活のなかでけんかしたり、時には仲間はずれやいじめなど、子どもたちは考え、学んでいくものである。心の痛みを共有しながら、本当のやさしさとは何かを考えられる本。		
1432	かあちゃん取扱説 明書 童心社 いとうみく/作 佐藤 真紀子/絵	いつもガミガミうるさいかあちゃん。かあちゃんのあつかい方をマスターしたら何だってぼくの思い通りになるかもしれない。哲哉はトリセツを書くことを決めかあちゃんのことを観察し始めた。すると、知らなかったかあちゃんに会ったり、忘れていたことをいっばい思い出した。怒りながらも愛情を注ぐ親の気持ちと、それを素直に受け止めていく子どもの気持ちがユーモアたっぷりに描かれていて楽しく読める。	(3) (4) (9)	
		選定理由		
		中学年くらいになると、母親の干渉が口うるさく感じられたりする体験をもつ児童も増えることと思う。母親を観察することで、母親の気持ちを理解しはじめる。さりげない父親の関わりかたが、助けになったりする。家族の一員としての自分の在り方や親の愛情に知らず知らず気づいていく本。自分の体験を重ね共感しながら読める本。		
1433	ネバーギブアッ プ！ 小学館 くすのきしげのり/作 山本 孝/絵	泣き虫のジュンは、うで相撲が大の苦手。一度も勝ったことがない。それなのにクラスで「うで相撲大会」が行われることになり、ためいきをついていた。そんな時、先生から腕相撲の特訓の話が…。大会の日までネバーギブアップで特訓を続けたジュンは…。普段の生活の中で諦めないことの大切さ、続けることの大変さがわかるお話。	(6) (9)	
		選定理由		
		「あきらめないこと」「継続は力なり」、主人公の生き方を通してがんばることの価値を考えられる本。自分の弱点から逃げずに、立ち向かうことの大切さをテーマに、成長していく姿は前向きで、一生懸命だ。主人公の言動に共感しながら、思わず応援したくなるお話。		
1434	絵本 いのちをいた だく みいちゃん がお肉になる日 講談社 坂本義喜/原案 内 田美智子/作 魚戸 おさむとゆかいな なかまたち/絵	食肉センターで牛の解体作業をしている坂本さん。ある日、家族のように育てた牛を生活のために売りに来た女の子とその牛との別れの様子を見てしまう。命をいただくということを考えさせられる実話に基づいたお話。	(1) (3) (4)	
		選定理由		
		食肉解体作業員坂本さんの実体験から生まれた本。大人たちには、仕事をただしく理解してもらいたい。子どもたちには、命の尊さ、そして社会には社会を支えるいろいろな仕事があることを理解してもらいたい、という願いが込められている。一頭の牛「みいちゃん」の解体までの物語を通して、命の尊さやその職業に従事する坂本さんの気持ちが理解できる話。		

平成26年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校高学年)

諮問番号	図書名等	内 容	認定基準	推奨の有無
1435	僕は46億歳。 親子で読む壮大な 「地球史」カレン ダー 学研 豊田充穂/作・絵 杉 田 精司 /監修	地球が誕生して46億年を1年であらわすと、たったの1日分という人類の歴史の短さにびっくりする。文明があらわれてからはたったの1分！驚きとともに、地球の46億年分の歴史が理解できる本。	(2) (5) (7)	
		地球の歴史を1年とすると、人類の歴史はたった1日分という短さに驚かされる。地球の誕生から現在までをたどっていく中で、描かれている絵や説明文から様々な発見ができる。地球の46億年が、この1冊でわかる科学の本である。		
1436	ストグレ！ 講談社 小川智子/著	家の都合で転校することになった主人公光希が新しい土地で成長していく物語。空手の中でも実際に打ち合う実戦空手を習っている光希が潰れそうな道場で自分の道を見失いそうになりながら努力を続けていく。その姿に家族や友達、周囲の大人たちまで心を動かされていく。	(3) (4) (9)	
		主人公が様々な人間関係に悩み傷つきながらも自分の信じる道を精一杯歩いて行く姿が清々しい。主人公を支える大人やともに成長していく仲間たちの姿が丁寧に描かれている。前向きに努力を続けることの大切さを教えてくれる物語である。		
1437	『赤毛のアン』と花 子(翻訳家・村岡花 子の物語) 学研 村岡恵理/文 布川 愛子/絵	モンゴメリの「赤毛のアン」を翻訳し、日本に広めた村岡花子の生涯を描いた伝記。関東大震災や戦争をくぐりぬけて生きてきた花子が日本の子どもたちに夢や希望を持ってほしいと生涯をかけて文学に生きた熱い思いが伝わってくる。	(6) (9)	
		朝の連続ドラマで取り上げられている村岡花子の生涯を描いた伝記。話題になっていることを差し引いても花子の著作や翻訳にかける思いに胸を打たれる。またこれを読むことで、「赤毛のアン」を知らない子どもたちが物語に興味を持ち読書の幅を広げるきっかけになって欲しい。		
1438	ミサゴのくる谷 評論社 ジル ルイス/作 さ くま ゆみこ/ 訳	保護鳥であるミサゴを守ろうと、友達アイオナと観察を続けるカラム。アイオナの突然の死を乗り越え、渡り先のアフリカでミサゴを助けてくれたジェネバとの友情を育む主人公の姿に感動する物語。自然保護についても考えさせられる。	(1) (5) (8)	
		保護鳥であるミサゴが、カラムの農場の一角に住み着いた。それをカラムの友達アイオナが発見し、二人だけの秘密にして観察を始める。厳しい環境の中を生きているミサゴの生死にハラハラさせられる。アイオナの突然の死、新しい友達ジェネバの手術。ミサゴを介して友情が深まっていく感動的な物語。自然保護の難しさもよくわかる。		
1439	おいでフレック、ぼ くのところに 偕成社 エヴァ・イボットソン/ 著 三辺律子/訳	両親に理解されず孤独な生活を送るハル少年が捨て犬フレックと出会い、家を出て旅をする物語。最後までハラハラしながらもハルたちを応援したくなる。一緒に逃げる5匹の犬たちが、人間の友達のように感じられる心温まるお話。	(1) (6)	
		両親に気持ちをわかってもらえず1人悩むハル少年。そんなハルと捨て犬フレックが出会うが、両親は飼うことを許してくれない。ハルはフレックと一緒に暮らしたいと祖父母の家に向けて逃亡の旅に出る。両親に犬を飼うことを許してもらったまでの、ハラハラ、ドキドキの物語。フレックを含む5匹の犬たちが個性豊かに描かれていて、まるで人間の友達のような。		

平成26年度埼玉県諮問図書審査票

(中学校)

諮問番号	図書名等	内 容	認定基準	推薦の有無
1440	天狗ノオト 理論社 田中彩子/作	日本の民俗に登場する天狗伝説。亡くなった祖父の遺品から見つけたノオト。「天狗ニアフ」との一文が……。少年優人の天狗探しを描く雄大なファンタジー。共に奮闘する仲間との友情を信じ、果たして天狗に会えるのか。	(6) (7) (9)	
		選定理由 日本の民俗を代表する天狗伝説をもとに、少年たちの豊かな人間性を丁寧に描いている。日本の風土を尊重し、そこに生きる少年たちの判断力や問題解決能力から学ぶべきことは多い。想像力をかきたてられる一冊である。		
1441	負けないパティシエガール 小学館 ジョン・パウアー/ 著 灰島かり/訳	カップケーキを作ることが大好きな少女フォスター。あることがきっかけでママと街を出るが、行く先ではさまざまな壁が立ちふさがる。フォスターは自らが作るカップケーキで困難を乗り越えていくが、誰にも言えない問題を抱えていた……。	(4) (6)	
		母のボーイフレンドであるハックの暴力から逃れるためママと街を出たフォスターが、自らが作るカップケーキで困難を乗り越えていく姿がたくましい。明るく前向きで元気がもらえる。しかし、そんなフォスターは文字が読めないというLD(学習障がい)を抱えている。そのことで散々嫌な思いをしてきたが、周りの力を借りて克服し、ついには憧れの料理家ソニーからももらった手紙を読めるまでになる。自分自身に悩んでいる子どもにぜひ読んでほしい。		
1442	おどろきのスズメバチ 講談社 中村雅雄 /著	都会にも巣を作り、人間に「害虫」としてこわがられているスズメバチだが、自然の営みの中で、スズメバチだって戦っている。仲間と一体となって社会をつくるスズメバチの姿を元小学校教員である著者が明らかにしていく。	(1) (2) (5)	
		選定理由 長年、スズメバチを観察し続けてきた著者による本。刺されると死に至ることもある危険な昆虫という側面ばかりが伝えられるが、それはスズメバチの生態を知らずに誤った行動を人間がとるからというのが著者の弁。スズメバチの詳しい生態を知るにつけ、恐ろしいだけの昆虫でないことが分かり興味深い。		
1443	明日は海からやってくる ポプラ社 杉本りえ/作 スカイエマ/絵	離島に暮らし漁師を志す竜太と、都会から島にやってきた灯子。島を紹介する「辰島ニュース」を編集する中で、島を愛すがために、葛藤を経て、互いを理解していく物語。島の漁師トクさんの遭難から、導かれるものとは。	(3) (7) (9)	
		選定理由 対象読者と同世代の少年と少女の生き方や進路に迷う葛藤が、島の描写とともに美しく描かれている。離島という県内にはない環境設定が興味をかきたて、様々な社会環境に暮らす人々への理解と社会参加を促すものである。		
1444	わからん薬学事始(全3巻) 講談社 まはら三桃	木葉草多15歳。将来の夢は家業である製菓業を継いで、「気休め丸」を誰にでも効く薬にすること！小さな島からたった一人で上京し、勉強に恋に友情に頑張る男の子の薬学青春エンターテイメント。	(4) (5)	
		選定理由 400年続く家に初めての男の子として生まれた少年が、家業の使命を背負い奮闘するストーリー。周囲の人々の励ましと主人公の努力で一步步目標に近づいていく姿に共感できる。その巻に登場する薬草、生薬の辞典が巻頭についている演出も楽しい。		

平成26年度埼玉県諮問図書審査票

(高校・青年)

諮問番号	図書名等	内 容	認定基準	推奨の有無
1445	島はぼくらと	瀬戸内海の小島に暮らす高校生4人を軸に織りなす青春群像。様々な事情を抱えて移住してくる人々と島民、島の地域活性に奔走するコーディネーター、特産品を販売する主婦など、それぞれのドラマを通して成長していく4人の姿が清々しい。	(4) (6) (7)	
	講談社	選定理由		
	辻村深月/著	4人の高校生の目を通して、島で生きる人々の暮らしが描かれている。本土から移住してきた人々と島民の交流は温かい。島民の生活改善に取り組んできた村長とそのサポートをするコーディネーター、島の特産品を販売する主婦達や網元を中心とした網子(あみこ)の人々の姿は島の閉鎖性を浮き彫りにするが、むしろその関係性は心地よくなる。地域社会を考えるきっかけとなる作品だ。		
1446	心	書店のサイン会で手紙を渡されたことをきっかけに、病気で親友を亡くした西山青年とメールのやり取りを始めた「わたし」。師弟のような二人の関係は東日本大震災を経てさらに展開してゆく。生と死の意味を深く考えさせられる物語だ。	(1) (3)	
	集英社	選定理由		
	姜尚中	親友が病死して生きる意味を失いかけた学生と息子を亡くした傷心の「わたし」との交流を丁寧に描いている。東日本大震災行方不明者の捜索活動のエピソードも交えて、人生の悲しみや苦悩、喪失感自分だけのものではなく、そこから再生してゆくことこそが残された者の務めであるということが語られてゆく。「心」という普遍的なテーマをじっくりと考えさせる物語だ。		
1447	NHK「COOL JAPAN」かっこいいニッポン再発見	外国人の視点で日本についてディスカッションするというNHKの番組を本にしたもの。伝統文化だけでなく、人気の街や学校などと話題も多角的だ。それらが外国人の目にどう映っているのかを知ることで、日本を再認識するきっかけになるに違いない。	(2) (3) (8)	
	NHK出版	選定理由		
	堤 和彦/著	外国人の視点で語る日本の伝統・文化・技術をテーマにしたNHK放送番組の書籍化。日本の素晴らしさを再発見し、何が外国と違うのか、どう違うのかを認識することは誤解を防ぎ、相互理解に役立つ。グローバル化社会に生きる若者たちには是非知っておいてほしい内容ばかりで、日本について新しい認識をもてる一冊だ。		
1448	自分を愛する力	『五体不満足』でセンセーショナルな話題を呼んだ乙武氏は「息子として」「教師として」「父親として」どのように自己肯定感を培ってきたのか。“障害は人との違いに過ぎず、人は皆違うから補い合う”と語る筆者の伸びやかな姿勢に勇気がわいてくる。	(1) (4)	
	講談社	選定理由		
	乙武洋匡/著	五体不満足の身を臆することなく明るく生きる姿がセンセーショナルな話題を呼んだ乙武氏が、自分の生育歴や教師としての経験、そして父親の立場から自己肯定感の大切さを説く。最終章「自分を愛せない人への処方箋」には、自己肯定感を高めるためのヒントが書かれている。氏の文章は明快でてらいがなく、このようなテーマも理解しやすく、読みやすい。		
1449	やわらかな生命	自称「福岡ハカセ」の軽妙な語り口で、難しいはずの生命現象がまるで映像のように浮かび上がってくる。その科学マジックとも言うべき生命論は文句なく楽しめ、気がつけば元気になっている自分に気づく一冊だ。	(1) (2) (5)	
	文藝春秋	選定理由		
	福岡伸一/著	生命は細かいパーツにわけていけば、機械のようなものなのか。いや、生命を構成するパーツには重複性があり、可変性がある。余剰があり、融通無碍で、遊びがある。生命の特性は、その自由度、すなわち「やわらかさ」にあるのだ——寄り合い好きのダンゴムシ、ハート形に交尾するトンボ、ウーパールーパーとヒトの意外な共通点。ノーベル賞で話題のiPS細胞も、福岡ハカセにかかれれば誰もがずっと臍に落ちる明快さでイメージがわいてくる本。		